

質問者	当日/後日	質問/意見	質問・意見内容	回答
8	当日	意見	本町では、原発事故を想定したUPZ圏内の原子力災害住民避難訓練を、平成24年度から実施しているが、当該避難訓練経費について、国から助成されていないと聞いているが、本町は財政基盤が弱いので、財政支援をお願いしたい。	まずは、そういった要望が出されたことは、東京へきちっと持ち帰りたい。住民避難訓練の取り組みなどは、地域防災計画に特に重要なものであると認識しており、京丹波町では積極的な訓練を実施していると聞いており、特にこのことについては報告したい。
8	当日	意見	地震により原発事故が発生した場合、UPZ圏内でも他の複合災害が発生することが想定される。避難経路である京都府道舞鶴和知線には未改良区間があり、がけ崩れにより2集落が孤立し避難できないことが想定されるため、道路の防災対策とう回路新設を原発交付金事業とされたい。	避難経路の関係の要望と認識した。政府としても出来る限り応えられるよう、きちっとその意見を東京へ持ち帰りたいと考える。
8	当日	意見	高浜原発で事故が発生した場合、町内に13か所の避難所が指定されている。この避難所には更衣ロッカー、シャワー、洋式水洗トイレ、洗面台、調理機器、授乳室、健康相談・検診室など17項目の設備が必要であると言われているが、私が調査した結果、7項目備わっているのは2施設、5項目備わっているのは2施設で、残り9施設は4項目以下であった。避難所設備の整備に係る事業に支援されたい。	避難所の関係の要望と認識した。政府としても出来る限り応えられるよう、きちっとその意見を東京へ持ち帰りたいと考える。
8	当日	意見	京丹波町内の和知地区の高齢化率は、本年9月1日現在45.1パーセントであり、町内で最も高齢化が進行している。そして、そのUPZ圏内で原発事故による危険があるため、今後、更に過疎化が進むと予測されることから、UPZ圏内の振興に交付金制度を創設すべきではないか。	UPZ圏内であることが過疎化を進展させかねないことから、地域経済の振興に関する要望と認識した。今現在では、内閣府の原子力防災担当に関する事項とは考えにくい。また、今現在無い考え方の制度創設のことであるので、即答することは出来ない現状である。しかし、そういった観点で議論することをはじめするため、東京へ持ち帰って、なるべくそういった声に応えられるような協議を行いたい。今後、例えば道路改良の問題など、政府内の関係する他の部局にも意見は伝えていきたい。
9	当日	質問	避難について、離れば大丈夫との説明があったが、離れていても風向きなどでホットスポットができたりするのではないか。福島県飯館村などは、離れていてもかなりの重度汚染地域となっている。モニタリングポストで見てから、避難先を示すと言っていたが、それでは遅いように思う。最悪の事態が、起こるであろう前に風向きなどの予測が出来るわけで、そういったことと避難の方法との連動について問う。	まず、離れると安全というのは、一般的な話であって、具体的な距離のことを申したのではない。飯館村では、言われるとおりの状況となった。放射性物質による汚染というのは、ブルームというものが大気中を漂って、どこかに沈着するもので、そうなった地点がホットスポットとなると考える。まずは屋内退避を、と言っているのは、避難の際に何らかの状況によって、そのブルームに接触してしまうことが危険ということであり、そういうリスクを排除することが大事である。屋内退避でかなりの汚染を回避することができるもの。ただし、ご指摘にあるように風向きによって避難の方向を変えるといったことについては、現在制度整備中ではあるが、適正に気象データを収集して、関係の自治体に提供できるようなシステムを構築することとしている。その情報によって、避難方向を選定することが重要であると考えている。
10	当日	意見	私は、UPZ圏内である和知地区の中でも最も原発に近い北部地域に在住している者である。その地域に住む住民にとって、放射能災害からの安全、安心を得るためには、まずは、モニタリングポストの設置が必要と考える。現在、この地域には、UPZ圏内の境界付近である本庄地区に1基の設置があり、常時測定値のモニターが可能となっている。最も原発に近い北部地域には、今後簡易型モニタリングポストの設置が予定されているとのことであるが、しかし、これは緊急時のみに測定されるものと聞いている。放射性物質は目に見えない脅威であり、北部地域に住む住民の安心を担保するために、常時監視可能なモニタリングポストの設置を要望する。	言われるとおり、放射線は目に見えないものであり、それを現実として捉えるためには、重要なことと認識するもの。そういった要望があったことを、関係の機関とも情報共有するとともに、常時監視型のモニタリングポストが有益かどうか、また、簡易型を多く設置することが有益なのか、さらにどういった対応が可能か検討したいと考える。
11	当日	質問	風向きに関する放射線の拡散方向の説明があったのだが、「スピーディー」は設置されないのか。	「スピーディー」の活用について、このシステムは、風速や、風向、放出される放射線量などのデータを用いて算定し、どのように拡散していくのかシミュレーションするものである。従って、風速などの気象データに併せて、放出される放射線量などのデータを必要とするため、迅速避難の用途には適しにくいと考えている。UPZ圏内については、ある程度発電所から距離のある地域なので、適切に屋内退避を実施して、被ばくのリスクを回避するもの。その上で、避難する方向が複数ある場合、どちらを選定するのか判断に活用できる気象データを、高浜のオフサイトセンターにおける情報共有によって、自治体に確実に伝達していくものと考えている。

質問者	当日/後日	質問/意見	質問・意見内容	回答
14	12月7日	意見	<p>私の住んでいる地域は、京丹波町和知地区より北部に位置しており、高浜発電所のUPZ圏内であって、更に大飯発電所のUPZ圏内にも入っている。</p> <p>町北部5集落で構成される地域であり、住民104世帯255名が生活している。</p> <p>そのような地域で、日常の安心・安全を担保するためにモニタリングポストの設置が一つの対策だと思っている。</p> <p>既に、本町には、本庄にモニタリングポストが1基設置されており、常時測定値を確認することができる。</p> <p>今年に入り、同じ北部地域である下栗野区内に簡易型モニタリングポストが設置されると聞いているが、常時モニタリングするタイプではなく、緊急時にのみ測定されるものと聞いている。</p> <p>UPZ圏内が町内で最も近い北部地域では、いち早く空間放射線量の影響を被るに当たり、放射線は目に見えないものであり、日常生活において安心・安全を担保し、不安を取り除くためにも、常時測定値が確認できるモニタリングポストの設置を北部地域に是非とも求める。</p>	意見のため回答無し
14	12月7日	意見	<p>町北部地域のアクセス道路は、府道舞鶴和知線が唯一の路線であり、高浜発電所からの災害で避難する際、幹線道路が土砂災害等で通行できない場合の対策は下記のとおりである。</p> <p>①北部地域から府道舞鶴和知線のバイパスを下乙見集落まで設置する。</p> <p>②下栗野グラウンドからヘリコプターで空輸する。</p> <p>③北部地域に避難のシェルターを設置する。</p> <p>④通行止め箇所まで歩き、車に乗り換えて移動する。</p> <p>以上の問題点と対策を検討され、高浜発電所の再稼働までには、マニュアルを作製し、北部住民に理解が得られる説明を求める。</p>	意見のため回答無し
15	12月7日	意見	<p>住民説明会当日は、原子力防災に関する一般的な説明に終始したと感じる。</p> <p>もっと、しっかりとした、京都府、京丹波町と連携した上での説明が必要であると考えます。</p> <p>高浜原発に関して、地元高浜町長による稼働承認の発表のある中、もっと、しっかりとした防災、避難の計画の実現が必要と考えます。</p> <p>内閣府の説明にあった、放射線放出時の被ばく防止には、「とりあえず屋内に入る」では対策にはならないし、内閣府の役人がわざわざ出向いて説明する内容でない。</p> <p>(又、町議会議員が、今頃に北部方面の府道拡幅の要望を国にしているようでは淋しい限りである。)</p>	意見のため回答無し